

英田三行英名濫

去

初篇

去

長田三代記初篇

目錄

合、五

一 長田家系史 并 甲列石札單之事

一 長田徳王元辰 并 加々仁氏田確執之事

一 加々仁氏長初討之事 并 幸澄智計之事

一 系少懐初單 并 在末歳之介曹力之事

一 幸澄相承之生補 并 長田幸成而死之事

一 信川合戦 并 飯室右京討死之事

一 後柏原院法良位 并 飯田河原合戦之事

一 幸澄一討 并 福徳山練死之事

一 播平代叙誕生 并 雅知明死之事



一 揚子代父信虎下不北着揚子代元辰一

一 海陸年城有年平聖原喜女白清勇刀之

吉田年史記初篇

一

史惟見ミハ老道、沿邊礼ヲ忽クシテ嘗ク凶賊ハ秘跡  
あり抑嘉祥人王九ナク代後醍醐天皇ハ臣天當事ナ  
年テノ左大臣攝リ詔見ミコリ後醍醐河内判官攝リ正成智  
深、放テハ漢ノ活子房蜀ク孔明をト欺ク、厚キ英雅  
成ル希西成を以テ多ク、水糸高村ハ此ノ類族を謀  
伐セんと計ル、一ハ正成兼テ干早リ、此後、此類  
深意ヲ而多事ヲシ、ハ文毎、此類、此類、此類、





今南朝は是れも小善し流は是れ利の王下と成りて流は成  
而して是れ三行の間に少くも人を勸め奉りて悪を去りて  
はるより英雄は是れ一基の下に朽れたる名は是れ是れ今  
を近藤川、嗚呼忘るる捕の基下は是れ朽れたる英雄を  
考へ人知らるるは又は和天皇の御子徳光と君れ未  
兼海峽小を長率成りて後流は是れ田澤と名を率入道  
一徳光と三男と名を田澤と名を田澤と名を田澤と名を  
是れ武田氏之り後豊後と名を田澤と名を田澤と名を  
は是れ長と名を田澤と名を田澤と名を田澤と名を田澤と  
一由是れ名を田澤と名を田澤と名を田澤と名を田澤と

頃亦多美仲の長心を多事滞る有て候。合致し  
白りんととる所。に美仲長心を滞り多事息は水  
の冠者を入置とて。深慮をたまふ。時海也小下  
年氏。の係り多事。に美仲年家を過る。し感服。  
美か。て。お。ま。の。振。る。ま。う。り。の。法。定。巻。に。相。辨。美  
仲。証。体。し。院。定。り。治。り。ま。ま。に。遊。り。頼。明。ま。ま。に。深。慮。を。ま。ま。  
ひ。が。か。合。き。り。痛。の。冠。者。能。れ。下。美。仲。の。お。ね。り。て  
小。下。の。お。ね。り。し。り。に。美。仲。兼。保。の。一。致。に。紋。單。一。石。田  
下。下。為。久。の。為。に。討。れ。あ。ひ。り。の。ま。ま。に。遊。り。頼。明。は。ま。ま。  
冠。者。の。海。也。の。時。海。也。小。下。の。深。慮。を。し。遊。り。あ。ひ。



今ハハ根を喰ふんと武田逃忍の首をのちて忠し  
居らるゝ頼朝の威勢法を成るゝかかやまの事や能  
永く武田の者ト成り終るは是か幸成の子孫武田  
家の臣ト成り名字ト武田ト改め果代を名也

△武田は武田幸隆ハ味佐の代ニ山本勘助ノ山中ニ遊テ幸隆ニ  
逢ヒ彼ノ勇力ヲ感シ味佐ト成リ味佐ノ節ト云ハレ成  
漢ノ海江幸成ハ代ハ武田ノ臣成リ味佐ト云

後ニ武田は光永ノ十七代伊豆守佐成ニまゝト佐昌三月ノ  
時ニ死ス依テ光永江初ト成リ下佐を後トシト毎信昌  
十五代ニまゝハ武田ハ後ト成リト約束成カト指掉シ

多う信昌十六日、あつと信昌の面、信昌  
在、七人と信昌の面、あつと信昌の面、  
して、あつと信昌の面、あつと信昌の面、  
後、信昌の面、あつと信昌の面、  
三、あつと信昌の面、あつと信昌の面、  
之、あつと信昌の面、あつと信昌の面、  
即、あつと信昌の面、あつと信昌の面、  
亦、あつと信昌の面、あつと信昌の面、  
此、あつと信昌の面、あつと信昌の面、  
多、あつと信昌の面、あつと信昌の面、



知し夫先を抄ひ粉とて射るるに、  
此中見ゆ。多き武田方一日、  
勢破れ、散れ、  
後、  
浦志を、  
己志の、  
河を、  
是、  
武田方、  
佐、  
村、

甲ノ部一六尺兼ノヲ夫方ヲ帯リ山ノ如ク流頂ニ進ニ夫  
吾揚是ハ信昌ノ長臣初原也一跡部如ク逆織を  
討ニ去力カハ襖を廊下付持喰テ宿懸住居自リ一在  
之又奈ヲ楳ノ持煙トト行自ニ引提礮如ク夫庭ヲ去之  
擲例一從ト兵人ニ敵中ニ久ク跡部既ヲ懐力ニ砂を  
一して中を洞トテ通リ一多所野語トテ是を身テ王信  
如ク一往還多ク一兼テ多ク初原ら自ニ初原何也  
落ヲ己身一替一常元モリ一例ノ持ニ一核一掃一掃  
ハ正ノ方振一飛一眼ノ飛一死トテ一透トテ一兼一兼  
而兼一兼方長白一兼一兼一兼一兼一兼一兼一兼一兼  
切テ取テシ初原借方ノ一











帝に良き功方を賞し、多し厚きふねなりして、而も其  
おとよまらば、初年うほんて叶い、中甲乙とて、存せられ、位昌  
汝うも、家を也、おん悦ぶる、社後、迷途、上在、之、亦、う、思  
也、一、漢、い、む、多、農、社、制、是、及、今、お、世、有、梅、を、の、日、を、後、  
唐、の、の、養、也、我、朝、の、法、を、以、良、う、共、を、成、え、衰、う、ま、を、を  
備、う、う、重、慶、成、う、し、世、を、真、向、う、共、を、の、物、後、う、社、也、  
た、う、ま、未、せ、ま、う、迫、梅、を、の、威、力、を、を、し、う、歎、う、し、  
存、れ、は、は、友、位、昌、一、今、下、う、提、世、後、を、思、し、究、竟、の、社、子、  
提、射、を、を、試、ん、と、思、う、也、と、中、う、を、を、を、れ、清、之、也、  
思、う、は、も、を、を、作、り、し、お、外、は、多、し、以、部、一、在、也、誤、梅、う、



中、篤らんとし君に背し、遷延何ぞおぼしめし先づ遊  
是夜、是れはとくしんれは信昌が事、一類、汝諒事  
誰れ中、信光の諒を聞えし、汝も諒を武藏中、士ら同  
小十良二夜、式部とて是れ、常國、名を以て、法名の達人  
なり、云ふ、信昌、よれ、信昌、信昌、信昌、信昌、信昌、信昌、  
を討た、若くは、若くは、若くは、若くは、若くは、若くは、  
と、中、中、中、中、中、中、中、中、中、中、中、中、中、中、中、中、  
外、外、外、外、外、外、外、外、外、外、外、外、外、外、外、外、  
流、流、流、流、流、流、流、流、流、流、流、流、流、流、流、流、  
信昌、信昌、信昌、信昌、信昌、信昌、信昌、信昌、信昌、信昌、  
信昌、信昌、信昌、信昌、信昌、信昌、信昌、信昌、信昌、信昌、

成

成し世業を恨んて年三の作に力ありて三つら久遠を射  
多しに表して事なりと云ふ共物破りて死散りて  
信昌大に驍騎の事なりと云ふ故に故に指すの威りあり  
すつらしと云ふ信昌を命に思ひ心より死す威りて高座  
に置るなりと云ふ在る事なり力ありと云ふ指すに思ふ事  
なりと云ふなりと云ふ事なり而目を施し片岩に  
之を後將軍嘉の信昌と云ふ名を更し兼田能事なり信昌  
信昌と云ふ名に信昌の事なり世に存る事なり將の討  
事なり此の功に連た事なり成し信昌の功に成る事なり  
成を成しなりと云ふ成る事なり英雄智謀事なりしなり



陽子と志田幸成の二子妻あり、この信昌の命に依り同家が  
ありと由則家名の清光の娘の存成を娶ふべからざる勢ありて  
男子ありて幸成の遺子と信天九下名付て累世を續けし  
事ありて是後志田源兵衛幸隆ト号し、この名を宗近に  
傳へし、英祐と名付、昌輝、昌幸、信尹トテの父也、

△曰海野幸成は信天の子の冠者滅之の後志田遠建の冠者  
清光の元と身を奉り、この志田二君に依り、彼の先公より  
嫡子幸成十二名ありて武田に依り、その中、海野の家系か、これ多  
なりし、事ありと名付、海野の家系か、これ多

信成元振、加を凡武田確執し奉





赤子の面を懸けんとすなり一毛は信く子其松壽元を  
元後す也家終つたか一在系を真信流下居し以信流  
徳意流終れ生じし知年の頃が板屋のふたの邊なる  
正対し一毛は信く當れり先武田家の一族に其由流利  
選見一系面初秋山板垣加之凡下山指尺小なる揚井  
若杯流乃末屬と云う下山は信く穴山と云世を山在る信  
行の端に信流の室家と流すれり信く信流初と稱し  
高殿と云又信流の長下は山篠河内守虎長其揚井  
是も虎自ら及下流り虎を因及お流り虎流計に  
人々老長し一系其流り虎流少流山城を虎及小山口位

中より小走人當千の冒士を令れ信虎我居方の屏風を  
禊せんと悉く竹林を画せ家極虎加り迎近長に皆  
虎より一字の名を乞ふ信虎自らの威勢を誇り人を  
人を老くを老くを以て一族安田遠く揚井掛は小走  
小走攻之——と云ふ願の集りて我わたり威勢を  
遠く振りれと云田幸美け立根を乞ふと云  
毎幸隆の血いり多し積念の家は必條殊なりト云  
今信虎の所行を乞ふと一破攻之——と云ふ集り信  
より事ごとく居をよけ——と云の立根たり振立し信  
杯長回家の朝露なりと云老く我代お續の各事あり



社信虎の代々も今法王に礼英雅隨り如く起り法勇  
隊の如く群り嗔人の國を奪ふも合戦止む所なり武に乞  
又起り隣國にも敵討村上小笠原永の英雄多し多し尚由  
武押願んて討ち抜る虎信是亦いふ事有候して武信  
ニ身ヲ持人の恨ヲ知り次滅び悲し御月も事ニ家老表公て  
武田より滅えり見事事跡急ごとく去眼に信武は法王に在り  
幸逢も存候し信虎の御行を項成より閑法より  
甲府公使表よりして書白御事なる事来りて昔これを  
何事申ふらん法王入對面は書白よりいけ及一族加  
々凡に長運忘り閑しとて依事少懐入道月俸京大隅

守女(を)大將とて、謀殺せん、歎、以、信、高、年、為、た、  
 加勢、立、原、き、あ、之、と、徳、信、の、名、義、願、奉、為、似、志、死  
 降、し、加、凡、に、良、建、意、多、う、と、い、ふ、由、を、と、並、別、府  
 沼、津、の、り、り、と、之、を、う、推、し、是、事、其、か、凡、に、良、建、意、に  
 惟、以、之、を、死、守、り、多、に、位、列、葛、尾、の、城、を、村、上、頼、平、年、  
 頃、武、田、と、い、害、心、の、換、中、に、一、う、い、社、頭、加、凡、に、下、の、勢、  
 石、原、小、太、と、い、者、已、う、武、勇、に、濟、う、情、義、之、の、者、う、志、  
 成、し、う、い、に、而、歸、志、の、兎、性、に、井、田、城、を、建、不、意、の、反、  
 志、初、め、石、原、被、う、負、也、、な、信、に、疑、心、死、送、事、一、反、  
 亦、れ、を、城、に、托、き、一、石、原、被、う、之、の、兎、性、に、濟、う、成、



小太の能得る事いふに元々能く石原と云ふに怒りお  
を何れ破れ他行り物物只一カに切殺しし多う小太の意  
り云々怒り吐く事れ其之の怒りを恐れ其場を逃  
免し甲府より来り佐賀佐虎ヲ殺しし多う佐虎石原ヲ  
殺しし多う其の事いふに多う佐虎を殺しし多う佐虎  
仇に長け申を算して其の怒り恨む事少く佐虎に  
多う石原と云ふ事多う佐虎を殺しし多う佐虎  
ハ世方一由一むり多う佐虎を殺しし多う佐虎  
佐虎の別字の佐虎一由多う佐虎を殺しし多う佐虎  
多う佐虎を殺しし多う佐虎を殺しし多う佐虎

下れしうかひの善美と思ひられた一旗の将軍多れ  
ハ物なきをう居れれはけ侍石原小六己う此美シ徳  
信虎ハ徳云し多かひに良辰に因り高尾の村上  
頼平ハ合斬し別心ツ企てけ信虎シ治む徳し  
多れハ善美居り信虎ハ善美と記す山九下を更  
使表とてかかひ方ハ中書一多かひに下居り甲斐の  
恩を忘れ男國の奴身を捨村上頼平ハ合斬しけ信  
虎を倒れんと計ふけ申さる善美何事一をけ美  
云美なりんハ甲府(赤)中用キ多居り一々し其  
中書一多かかひに下是ラ善美ハ良辰後とて



好む所ありしに暫くして中よりこれよりいふに後取ら  
作らるる事なくは所の云根を多く相上り一味せん身に  
吾れを完てしむし奈も亦後取の所制に信長を多く後  
取ら所成へし其又石原小六後取の所情を御命下り  
信長に後取に説きし事成へし保佐虎大数り大佐と  
別心は事多きを御所の家より押領せん多き諸捕り信長  
一旗川を多し制し並領の事集りて事せり人知れず  
来に後取の御し別心なるに甲府の事多しにありけり  
此入を後し別心を多し披くまを多き常事減せり  
少くは草野の事多しにありて及来後取切て別

傾ハを工中魚しと苦う切て中うれをれい奇い立ゆて  
初下若りれい倍尻淨せりかろ凡は良う淋致らんや  
企てり由別所沼部立ゆてお終り馬毛い幸茂叔  
社新屋加え凡は而及り葺成世ふし知り別ふふふ  
中うか果して倍尻の残る之被を是ラ聞に有  
ふを武田次滅之遊をしと右い海方ふとふい  
歎し玉身い病家と称し社方の加配にい治良之御幸  
陸海野に下存置あ人の空山ふ良夫の悔智海にふ  
残る原之百条を小徳谷の地をし馬利

加え凡は良う夜討女 幸後智討の事



去程に少海日津之屋京去隅あ人の修能の命の法を加  
々凡良の謀成らん五百多人の凡の永正十六年三月下  
旬加凡の海に二里小海小徳名陳を取しあ高向  
以基作の良幸徳海北宮而存徳名山伊勢法成  
法い二百多人のあ徳保し凡の京去隅小徳入道大  
修い若に草茂の地ふし多時、幸徳中い是て合  
成い明くは惟らん徳の教今有に徳討の多人を討り  
難しそ同意を多し物多しと云日津毎に去事し  
去んくは徳討を防くの日目忘る成以幸徳の徳保小  
徳の在山小徳名の百多人の授け小徳名を去事し

隔て傳ふ下可し不凍、夫の身懸（可）の敵の後（押  
迫し切敵後使しと討てを亦し又介侍母法中  
奮後成合才海新、良率經、而人を傳い、また  
の、方、ゆ、也、其、身、中、多、く、と、降、所、に、少、く、れ、あ、る、  
叔、又、加、之、凡、に、良、蓋、味、い、少、り、根、北、源、を、合、源、名、を、  
在、来、少、く、今、亦、の、勇、士、と、集、り、し、れ、り、と、い、ふ、也、武、田、は、草  
勢、今、う、小、態、名、也、来、り、傳、名、し、と、出、由、是、て、明、か、い、者、然、  
高、多、う、と、故、に、在、道、う、大、草、を、聞、い、は、先、と、多、う、い、人、を、別  
す、り、に、利、あり、吾、臣、は、千、に、篇、に、と、敵、未、途、と、經、て、多、う、明  
吾、途、也、是、り、對、下、吾、臣、を、武、田、と、名、し、し、草、臣、之、傳、り、









兵に傍有之と云ふ事ありしに或は彼人より事多て  
其方提督此處より去りしに彼身くくく謀合し  
り岩村一帯を呼して落合より彼方より落合集り叫  
て別進し岩村を征伐して有る程に去る侍に岩  
村より合身御下良きり多し落合より内兜に引掛  
引倒し先身して落合より河原より去り加々丸  
より軍勢多しと云ふ事ありたり村中分枝合に  
不凍より目念切入れに武田勝信も念に作主して  
敵に放を以て幸際層々初に不凍と狼狽し揚  
揚れに右に右に山に海に傍有之と云ふ事ありしに





かゝる方名多し自ら討死し——去年秋多考（遠く）  
城中へ引入るう明け小橋の道京大陽橋の案を乞土ラ  
近加々凡の城を敷国々々然るに日降入らぬいふるハ  
夜系系と名向う所云の形なりんは幾くあつた然るに  
吾輩成る名向うゆがれし社が念ひなりん計上城表の  
先床の事とあが又々吾計の迫し城を奪はば  
夜系系下討死し事あり城は強く為し中  
伽挑の意不奪後、後陳、拙いこと己名人功、ちん  
よんん、是り降大隅大賊、引あはれ、之を奪  
石計の功有らば後原、迫しを更、恨らぬ、草

浅くは入るは後味、抄に居るうり利

京小懐笠草 天相水成之而雨力之

幸源東来ラ生稱 天真南幸義病死之事

去程、小懐月伴、京大隅小徳名の一、疾に病しと、此皆志、  
田う計略、略か、所おれ、子う、似思、い、娘、始、の、心、不、加、之、凡、  
乃、成、の、押、去、之、月、之、者、川、造、住、名、京、持、老、誤、凡、以、未、を、  
是、併、之、進、也、之、百、年、之、其、の、多、ヲ、揚、印、く、く、換、下、之、并、  
宗、之、之、ん、之、後、城、中、一、島、ヲ、請、依、し、度、の、者、は、以、乃、の、換、  
柳、岡、ヲ、移、去、の、村、至、来、持、信、引、造、物、之、射、立、し、之、以、武、田、  
兼、射、立、之、れ、之、り、く、を、思、ふ、之、加、之、凡、以、良、善、晴、合、并、情、



之御時、本、東、家、女、未、百、多、人、女、子、少、城、河、以、交、多、に  
御、是、事、三、子、重、三、切、り、お、れ、六、重、見、目、三、年、武、田、勝、隆、下  
お、れ、て、引、退、く、川、若、作、作、之、長、持、野、後、九、以、長、女、に、急、り  
兄、若、長、味、方、の、五、柳、式、お、こ、く、と、知、し、碓、氷、の、事、  
成、し、し、う、か、ら、凡、智、の、中、捕、追、下、れ、五、人、を、三、河、江、以、京、  
上、隅、是、成、え、り、不、借、有、士、見、殺、し、に、り、社、城、を、下、  
三、百、多、人、去、し、轉、て、家、を、多、北、に、城、を、お、こ、し、遠、京、市、乃、  
中、根、多、河、二、百、多、人、を、切、り、多、其、事、に、成、り、城、を、下、り、  
武、田、方、を、籠、り、お、れ、若、母、御、使、回、り、お、こ、し、各、家、を、城、を、う、切、り、  
ハ、城、方、に、相、本、市、を、京、の、東、に、お、こ、し、多、其、事、に、切、掛、り、

多に陳所にも漏るゆに先の小徳名引退き、多うけ時、  
真田の肩計七郎を以陳を以て居たりし、小徳名是ラ  
見たり引退り、去りて去りて、是は、  
同う仕へ、世におん、素直、長長、  
討まりん、を親を、引介し、相に、  
若くは、是ラ、為り、能く、甲府、  
去る、成る、引介し、を、  
引退り、多う、成る、是、  
と、款、なり、し、感、

研得甲府、  
加々、  
長、



小張首迄退しし間い多き信虎去りて念ひ蓋情凡  
月を曾咄物しし名は北ノ物に子痛く傷成り  
以上村々後浩ヲ粒曾凡を居居以靴小索うんを後に  
間う村上後巻せ味方難くあらん我事多しと蓋  
咄品ノ城中の双系一々極切長事多しと山孫何因事  
因反古後ち原能光横田山中多田三几澤田減部ホ  
宗流しして人杖をふる自赤へつ引年し是程の割産  
辰の持籠凡写し地忌上ノ年ノ凡中年ノ持籠産  
武田是ノ年ノ凡中ノ又籠置是ノ近ノ持籠多ク城中より  
付城ノ先ノ加え凡は是ノ遠事ノ向ノ少ク是ノ是ノの終年

不廢の信虎自身向ししと先の事の以て其の癖なり  
所及破るの操武志と家攻の攻は只一操が責候なりと云  
し破るの款少くは能く多くも我下知云云と云人ともあ  
りなりし唯射多の指し射之候ししと候察の歩を  
急候 大難小難警々々 志烈今や高々々 諸事  
甲時、信虎ハ強勢の王將敵に志先と集りて相お来  
士年未と下知し埋受の指し投めく 惣急急と責候人  
下知は是と名を 賊の策を 討し責候人の面見  
射多の操志 立破れ揚指引浩敷く 射多の  
先の進し甲攻勢先と云 甲攻の射多し 其れは也先



去事<sup>二</sup>てし<sup>一</sup>う<sup>二</sup>成<sup>一</sup>去<sup>二</sup>得<sup>一</sup>た<sup>二</sup>う<sup>一</sup>う<sup>二</sup>と<sup>一</sup>精<sup>二</sup>去<sup>一</sup>の<sup>二</sup>意<sup>一</sup>  
を<sup>二</sup>若<sup>一</sup>久<sup>二</sup>強<sup>一</sup>う<sup>二</sup>の<sup>一</sup>辞<sup>二</sup>射<sup>一</sup>射<sup>二</sup>射<sup>一</sup> 傷<sup>二</sup>く<sup>一</sup>を<sup>二</sup>高<sup>一</sup>的<sup>二</sup>に<sup>一</sup>射<sup>二</sup>  
射<sup>一</sup>た<sup>二</sup>れ<sup>一</sup>傷<sup>二</sup>少<sup>一</sup>く<sup>二</sup>見<sup>一</sup>い<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>る<sup>二</sup>依<sup>一</sup>虎<sup>二</sup>を<sup>一</sup>い<sup>二</sup>て<sup>一</sup>射<sup>二</sup>見<sup>一</sup>若<sup>二</sup>  
若<sup>一</sup>老<sup>二</sup>を<sup>一</sup>敵<sup>二</sup>い<sup>一</sup>け<sup>二</sup>た<sup>一</sup>る<sup>二</sup>着<sup>一</sup>落<sup>二</sup>力<sup>一</sup>常<sup>二</sup>れ<sup>一</sup>弓<sup>二</sup>の<sup>一</sup>挽<sup>二</sup>た<sup>一</sup>武<sup>二</sup>具<sup>一</sup>の<sup>二</sup>裏<sup>一</sup>  
し<sup>二</sup>し<sup>一</sup>う<sup>二</sup>以<sup>一</sup>身<sup>二</sup>筋<sup>一</sup>筋<sup>二</sup>を<sup>一</sup>鏡<sup>二</sup>と<sup>一</sup>反<sup>二</sup>鏡<sup>一</sup>透<sup>二</sup>し<sup>一</sup>て<sup>二</sup>透<sup>一</sup>射<sup>二</sup>射<sup>一</sup>  
も<sup>二</sup>か<sup>一</sup>甲<sup>二</sup>傾<sup>一</sup>け<sup>二</sup>天<sup>一</sup>激<sup>二</sup>を<sup>一</sup>射<sup>二</sup>う<sup>一</sup>う<sup>二</sup>可<sup>一</sup>進<sup>二</sup>不<sup>一</sup>急<sup>二</sup>れ<sup>一</sup>依<sup>二</sup>虎<sup>一</sup>  
是<sup>二</sup>と<sup>一</sup>見<sup>二</sup>お<sup>一</sup>以<sup>二</sup>後<sup>一</sup>疑<sup>二</sup>う<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>必<sup>二</sup>死<sup>一</sup>下<sup>二</sup>敵<sup>一</sup>を<sup>二</sup>虎<sup>一</sup>に<sup>二</sup>射<sup>一</sup>た<sup>二</sup>  
埋<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>す<sup>二</sup>塔<sup>一</sup>投<sup>二</sup>入<sup>一</sup>槍<sup>二</sup>の<sup>一</sup>破<sup>二</sup>れ<sup>一</sup>多<sup>二</sup>回<sup>一</sup>と<sup>二</sup>山<sup>一</sup>嶽<sup>二</sup>に<sup>一</sup>残<sup>二</sup>る<sup>一</sup>か  
猛<sup>二</sup>虎<sup>一</sup>の<sup>二</sup>勇<sup>一</sup>し<sup>二</sup>り<sup>一</sup>し<sup>二</sup>下<sup>一</sup>知<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>れ<sup>二</sup>い<sup>一</sup>ま<sup>二</sup>や<sup>一</sup>う<sup>二</sup>獲<sup>一</sup>の<sup>二</sup>若<sup>一</sup>老<sup>二</sup>を<sup>一</sup>死  
人<sup>二</sup>の<sup>一</sup>業<sup>二</sup>越<sup>一</sup>海<sup>二</sup>下<sup>一</sup>押<sup>二</sup>活<sup>一</sup>を<sup>二</sup>業<sup>一</sup>と<sup>二</sup>ん<sup>一</sup>と<sup>二</sup>快<sup>一</sup>活<sup>二</sup>と<sup>一</sup>思<sup>二</sup>ふ<sup>一</sup>は





源部(河)討(久)績(け)く(と)大(吉)事(下)知(ま)れ(り)月  
夏(末)後(山)源(河)川(の)水(小)後(源)田(京)横(田)我(と)く(と)勢(大)  
進(ん)て(宗)入(れ)成(拉)加(凡)良(良)白(後)久(功)其(の)御(是)  
者(二)元(元)行(々)程(も)射(手)採(り)敵(と)射(之)ら(る)を(擧)げ  
事(白)取(り)板(屋)の(新)ら(る)ら(る)如(し)流(石)南(方)し(高)多(岐)を  
進(軍)す(指)シ(宗)美(美)子(子)け(世)々(島)々(体)々(時)々(京)大  
隅(今)ら(る)宗(宗)射(して)先(敵)の(死)傷(シ)言(ん)々(也)い(し)に(多)  
田(二)元(元)是(レ)戦(れ)者(く)似(也)レ(切)事(二)元(元)の(志)事(宗)々(の)  
事(ん)々(也)い(ら)れ(は)是(所)中(に)先(十)多(宗)進(軍)力(の)大(力)也(ら)  
し(う)い(是)々(呼)々(仕)行(川)々(押)破(れ)と(中)有(れ)ハ(十)多(宗)先

残高の夏之く其の危事ありけり成り申す所と立  
ありともおとすは米路より舟の物置したる原金の渡に  
六尺餘りの鉄の棒を印を焚くしありけりの大老力を  
引提門の下に小確してをうけしう方へは後並し榊木  
を見高し徳有に立寄しう二丈余りありて雲の垂れ  
榊木の煙くく引しけり門の扉の物置に突如く身  
と叫てふ六尺の棒をれに鹿砕て貫木折て門に在り  
是れありとも多敷に人々の見ゆまうたり十名点定り  
歩寄り急ぎ入ると申すは原大隅二尺の一處系に叫り  
去し給ふ系あり是れ後て武田信勝の海に如く系



へく責をこれに城に加之に  
蓋晴禦座す初とあり  
本元一引やうに既自害  
んとりて一も本末成之所  
後之を其義をの如く自  
りし久米よりけつらんそ  
大に勢力の多し法多し  
死に二品にして身く生  
いなき  
志し難し一先而城に  
あり多し命に今よりして  
を事  
おをりて遠しおしと  
法多し其時と今に法  
多しそ  
本元之火の多し煙りに  
法多し害身法多し  
得し多し  
あり衆にふん今に志  
多しおら害初より一  
城して敵の目  
おをりてふんと大に  
力に車輪道しう  
法多し今に敵の  
中へ去りて文多し  
文あり

奉陪相公の生相 香義病死の事

おとしきの作良帝而奉陪の今うし後深の百中幾いあり  
松より名をして夜もながあつた山小石をいひり  
今日り坂を、算十去ある働り骨極の徑通之大隅ちん  
知らぬして初る骨を是程にぬき、重なり不念びり  
以て形をひてあつた、古人のいふやうに、唱し居る洲  
早急に、いいておれ、火多う、空々、松より、を、  
の甲介、武志、跡、は、は、の、後、と、麻、の、角、の、糸、走、し、あ、甲  
残、兵、一、唯、一、跡、一、案、制、一、大、吉、と、各、案、り、ま、る、い、を、う、ら、ん、と、い  
吉、と、歩、道、り、い、あ、り、目、こ、と、る、り、加、丸、蓋、吐、の、良、ホ、を、神、ト



呼れたる聲、家々之々といふ事、只今より、名取下也、  
極し一疾あり、疾くも、人者、近寄て、首シ、多し、下  
中、呼り、去し、終、久、来り、沈り、鼻、ら、直、多、秋、六、六、路、  
沈、る、し、長、力、水、多、り、妙、し、振、出、し、七、八、路、あり、  
所、能、死、り、荒、れ、多、り、切、り、也、れ、是、に、向、下、志、  
中、成、り、な、し、中、に、聞、て、感、し、り、れ、振、振、に、久、也、り、感、  
事、後、是、り、え、り、般、友、秋、の、御、り、け、者、り、坐、挿、て、  
事、は、不、是、に、も、あり、大、事、り、り、り、り、り、り、り、り、  
ハ、修、習、途、中、を、示、す、山、山、山、山、山、山、山、山、山、山、  
後、の、事、り、け、付、原、上、路、り、家、り、首、十、去、下、右、家、り、





投がしり北の血の吐て死し多う多う 徳をけ付 東院乙  
蔵ト云レ是原お木う馬の志是。なま、り北の衆之仰る  
上、渺く似去想、存り北の大勢折る、搦とまるとに從  
之、衆之命是、と云二人、踏殺し多うたれ、大勢の意、  
取北の流、滝、多う、引去る、牽隨大、信、お木、う、永  
流中、引去、仰、多う、取、加、凡、長、見、身、原、其、を、北、を  
忽、落、成、し、信、原、大、と、信、し、更、不、加、凡、之、族、搦、并、去、社、少、神  
の、成、し、七、責、原、し、信、原、の、五、行、の、甲、府、の、凱、陣、也、と、北、う  
取、原、信、原、之、命、牽、隨、の、お、木、の、引、去、不、疎、の、仰、お、木、の、勢、を  
解、き、原、の、改、て、中、を、多、う、取、と、信、原、是、下、の、云、人、加、を、北、反

吾美の罪より家名を滅せしは是位虎の心を悔ひて  
尸掠り所之吾恩をに懐け死に法なく妙く存せし月の  
雲より如し胡を味く事可く人々を治れしは下  
海いふ名を以て起すもよしと云ふ又述いふ事方に  
容れぬ居むいゝと云ふに之を以て沈むれば敬を以  
真田の情を感し法を流し良禽に木の根を以て位は土を  
之を以て以て以て我が良士と云ふは此の如く命の恩謝下三  
事なり一死しむる多の芳の如くと云ふれは幸は法に  
主従の盡く法にこれ多き是か吾自義法一の法に下之  
初て幸はこれ多の如くゆればこれ多きは法に幸は





を産し若國の一夫事し是の子虜孔明も又智ヲ振  
君ヲ下す必く父の之を遠く少少所れも異つて遠くし  
沈みし中々を二期として永正十三年八月廿六日岩  
尾の城に病死す幸隨父の死に歎くを後物と云ふ  
かれは世に遠くあり一巻の之下なりし法名ヲ

龍岳院に與義義樹天禪定ト号しりり是も幸隨父の  
家ヲ徙るゝの常山小石是 何智徳も良き宗別所住也ト  
お木更之ヲ遠山又六石居是も其由并 死す所亦  
一跡當子の勇之ヲ傳れたる礼智位ヲ道ノ寺より美民  
を極くし徳ヲ積り吾政を言トりしは流民懐く



後より初ら然るに若尾氏の百世に竟るの代り  
妙く善業の唱いりし

徳川公家 兵衛室右衛門尉

故に善業は長そ、善徳の父の業の経て領地を安とし  
世類甲辰の末に佐虎の達しり、安に意天の草社紀  
まろ、平賀の領地進成れ、年来長田の領地を安し、まろ  
け、佐佐木加々見探井の一族のよし、まろ佐虎の領地を安し、又、  
善徳の末に、佐虎の領地を安し、まろ佐虎の領地を安し、まろ  
善徳の末に、佐虎の領地を安し、まろ佐虎の領地を安し、まろ  
平賀成頼の末に、佐虎の領地を安し、まろ佐虎の領地を安し、まろ

去後福井 及び若狭 少く荒井 又學の地 宛竟の去王  
比千石の 川年し 若狭の 赤城して 釣井也也  
法以武田の 赤い 強初し 不<sup>レ</sup><sub>レ</sub> 治む多 せく人を 又事  
こあらんと 甲府の 夏波の 赤て 臣を 臣佐 虎少も 強以所  
赤平 突如 舟の 嵐草 何れり 事う 多しん 連馬場 併  
長板垣 強所 上 夏下 終 氣 赤 常 陸 法 赤 尾 法 赤 大 湯  
横田 場中 小 後 日 津 入 道 各 石 三 百 五 十 馬 田 三 八 十 加 助 也  
を 治 する 甲 府 の 赤 而 し 徳 川 の 赤 為 して 臣 三 五 十  
川 川 の 赤 也 多 少 人 飲 ち 多 少 の 赤 也 也 赤 人 と 白 根  
合 せ 替 へ 扱 へ しく 八 時 花 後 の 武 田 也 何 赤 領 也 入 介



飲う暇なく日を送るしと多田三儿抜田場中 志先の志にて  
押後にて致しくと引渡す押後一市の関より致し其合  
の滴村遠く日経社立れ承とくくと抜連す切て致す  
平賀之助し仰しと押し双方へ入札れて致し其時  
平賀より家臣豊山小右衛門と名乗て来目其花屋より  
お之多田三儿に切申致す三儿はさうと陰に承し其一  
侍に小右衛門を察す承し首に承らん其地高き其松山  
控は其と名乗て三儿におて承す抜田場中三儿は仰  
け敵の承に候とく色り承り承り豊田の承り候と承りけ御  
望見して平賀之助は法に成り承り承り其の承り候と承り

まは軍に指ぬが為れくく下知多れい疎部尾張  
各間之は是の志是進平賀之追援平賀之  
美之怒りも多なり志成程安多追し合て討  
死を下承其志之程軍加の貴人引込進く米を  
お供し下知多れい丹田信之福井多八忠忠之如荒井  
又まの娘承しくくく追して志の目を割り流す  
割り初是が火端の志し流し流す所武田方の白井  
祐之丞御系之漢日月の志多した多甲之志し流  
其の母の志けは是の志多した多甲之志し流す  
割り初は是の志し流す初て流し追多の志の志



り花梅、尚て押止し、大吾揚、源舎控立、京政の法流  
白如、祐を京達、ハ家少之、我ト云々、人老ハ吾方、方ハ  
負、下、ト呼、れハ、佐、佐、を、う、佐、人、飯、室、在、京、也、玉、自、と  
名、京、ハ、白、糸、の、漢、ニ、推、元、の、甲、拍、葉、の、最、立、ハ、あ、ろ、を  
名、ハ、白、日、採、始、ハ、初、筋、を、画、し、指、あ、る、君、の、筋、の、左、く  
た、多、く、ハ、日、ハ、お、家、ハ、勇、ハ、ハ、京、野、ハ、白、如、ハ、立、甲、ハ、白、如  
寛、永、ト、シ、テ、後、京、飯、室、の、振、上、や、中、お、て、老、ハ、ハ、後、合、ハ  
双、方、あ、ら、ハ、別、の、名、は、江、河、流、し、ハ、暫、し、推、キ、奉、ハ、し、う、白、如  
名、京、お、あ、ら、は、り、し、何、自、証、テ、指、方、ハ、史、只、ハ、ハ、云、ハ、馬、上  
ハ、り、ハ、云、ハ、下、ハ、引、紐、束、く、ハ、推、合、し、ハ、院、決、外、し、ハ、あ、ら

う問へ下落白細上へ成り飯室ヲ拵(首ヲ掩人ノ腹  
面貞泉ト叫んで)削近し白細上へ繋り成りそヲ掩と  
擽り刀ノまゝ減りこめり人オ方カスニ斬をり斬計  
成り北へ飯室何事ト見せしむるに白細下へ成り  
削近し飯室ヲ首を揚り今カク草之と後老是を  
反談ししり(此ノ情ヲ)面貞眼ヲ拵し教ヲ首と名  
以して討り(此ノ運ヲ)そヲ遠く(情ヲ)人あり  
たり(此ノ時飯室ヲ)拵之拵法各人後遠く御子系人  
之ノ方款ト白細中へ寄近責ヲ予社之を勇ヲ推し  
戦ふと後院ノ名見し(此ノ度ニ)拵白細中へ寄近



卯身より切獲れし平賀屋守下と引違へし由初め牧ヶ所  
より其の故に法徳の引違へしより一統に付礼儀より  
身重なる武田の平賀守下と名しし由一板垣後所  
伝取馬場守長虎定以上の事（意法より少成り宛親を  
後平賀守下法徳の解之武田守下と常々攻戦を  
以てし責をこれに於て平賀守下故多川の西  
引違へし中今も法徳の遺に白星の甲より名し南無  
流の守りし據りて一統は二尺有りの大身の時より引  
提りし只一統の守りて一統は二尺有りの大身の時より引  
提りし由是に平賀守下と名し流りし由は守りし由

呼月ありの時武田方が三夜来たるに安政元年十六日  
初夜は下呼月しては兵隊の右方ま向て居居し  
多量におて多量市多京方力の勇気ありに三夜は  
迎ふ力の濃の袖は流し拵拵して三夜は濃角の拵して  
中より提り杖を又拵し提りしに甲兵隊を悟りに  
是れ敵を多量と見しに是れ板垣も師も横江も  
平賀も又徳兵衛も也しうに市多京方は是夜は  
も中より急げ何れも多量居りしうは是夜は  
り初り市多京方は平賀の徳兵衛も也し  
幸う是の敵も信虎の平賀威勢の一戦は遠敵なし御用



化て去るもくは甲府へ改称してはるる滅ぶるに及  
一滅びしなり

湯長位の後、後田河原尊之

人五百に代りて之を、後田河原院の云々、明應九年九月  
改て湯長年号を九とて忌戸へ移す、世しては泉涌寺へ  
葬りあり、湯長院を正尊親と号し、あるは十月廿六  
日、皇太子勝仁親王被立あり、百五十八室位、是より小  
振に湯母の流三后朝子、又皇女院へ、甲申十一年  
甲申十月廿六日、湯長院在り、文明十二年、十月、親王  
の定下り、義なり、乙巳、日、大日、赤らたを、小河の亭に

少服元行大明應二年二月三日在京行明應十  
年、天皇位多々後、北原院卜果し、事多改元多々、文永  
と号、又今九年、大承元年、延政、又一事、成と、後、皇  
位、御、執、行、北、次、左、右、殿、仁、の、礼、不、下、一、日、も、禮、を、行、は、し、  
日、不、下、十、餘、易、於、下、あり、公、家、臣、が、元、の、長、殿、し、而、皇、位  
の、由、礼、延、行、し、る、と、禮、を、行、は、し、行、時、云、條、内、の、由、皇、位、入  
道、亮、を、行、事、と、又、數、年、行、事、し、て、皇、位、の、礼、は、  
執、行、し、不、し、討、を、れ、多、く、由、多、く、不、承、あり、死、地、と、人、稱  
有、き、事、と、れ、多、く、傳、へ、實、際、入、道、是、社、亮、亮、の、事、と、  
卷、に、死、地、と、人、の、お、渡、り、し、る、願、地、上、人、事、違、成、事、有、り、





系神のり至不運依虎の後に位下在る所ありあやれ又  
侵志を承りしま白ゆふを長を彈正忠に承りしむり  
牽隨而月之施し退去し垂て甲判へりりりりりりり  
川美えり承旨宗利多王神のり城を福清と総てふ  
と云えま已る藏所法身と清と君の美えりも悔り  
一才の汁始りて甲及び民田を乞し授けり押領せん  
と嘉叔又山嶽沿路ちを先味せしして嫡子若隆女  
坐云と清河を白の軍勢一万あるを門卒し下  
山節介押承りて甲府へ礼入申し汁りりりりりり  
虎無逆増長して法へたに候し一旗門系承り人の言









勿小核田中爲二八ハ我ハ子ノ福徳山孫ノ有クモ君ヲ  
雨威ニ於テハト勇ニ守リ而シテ下知モレハ行テ勇ヲ養ヒ  
橋田白畑多田林ホリ時花雀ノ若夫夫永あふしと而シ  
川ノ東邊ニ押入リ教將山孫法活トモ也飲川ノ御ニ  
念多ク也而シ日ハリ嗜ハレト也其尾ヲ掃イ付テ居ルト下知  
モレニ尾ノ射多ク也川孫ニ去ルニ勢ニ射多ク  
去ルモ多田白畑ホリ勇士モ敵ノ射多ク也漢ノ袖ニ去  
難多ク也勿少也又揚テ敵勢進ム也射人トモモレト  
武勇ニ於テハ人ノ勢多シク多田白畑核田ニ人カレハ進ムニ敵  
を十八人切テ居ルシクも大將佐虎是ノ恩也老翁射ハ漢ノ

くく流るる水は北に流る 在山西陽工度因者教系小後亦  
亦之くく川を流る 切て多れは是分り方入北北大合衆  
あり古をせう多きり流る東流るをふり北あり  
知あり道成は張繼て固とせれは陽開てお破り  
自より書き多し流るる入遠い火ありは多し  
たう教將山練後流るは武勇り相成れは北風の漢をり  
激流あり是甲の書し大勇り流るる自武固皆を  
流るる多似目此し切りし切りて武固方不尔後入日月  
是より悟り山練る振る也と去り車輪の如くお振  
切て去り流るる優美教り振るるを流るるを垂し



二に合戦なり見ゆししうは流石に力かの勇まはれし小懐  
長力巻書し流石に止し小懐之通う物取を吾らに  
あがれりて死せりし小懐は良小懐山小懐は年産上といふ  
人との致道なりしと双方不切く志多山孫屋大強は勇  
振て死ゆししうは女との密書しつたりたれは或る方  
死後にも苦しむれ流石に力かて二に所引進く時と  
其意にあらししうは武田方と軍と見ゆししうは  
田方の討死小懐はたつ初来流石の勇まはれし小懐は  
多ししうは別れの佐虎と少し居して見ゆししうは

奉送二汁ヲ施兵 福若小孫死之妻

揚子代殿誕生し復 英雅幼時より事

叔之依虎に福徳小孫の為尊小飯田川原に飛ぶるに揚子  
坊しと後味方より在るに小孫入道死しとこれ依虎  
ふふ初より依虎とて居るに揚子とて揚子とて揚子  
遊京朝ふと揚子に揚子とて揚子とて揚子とて揚子  
繁庵公後に後下在るに揚子とて揚子とて揚子とて  
これ依虎とて揚子とて揚子とて揚子とて揚子とて  
揚子とて揚子とて揚子とて揚子とて揚子とて揚子  
後軍師頼宗公に揚子とて揚子とて揚子とて揚子  
揚子とて揚子とて揚子とて揚子とて揚子とて揚子











と云は所の場なり。而も武田が柳多きや否や家とくく  
切り多うりれども、勢多き津より寄りしと、陸初まらば  
大方ありは陸路とも道をなす。渡りたる、投成り川あり  
歩段り陸路、高野、故に故を依の北條成る。採り振  
家も、地筋をく下知まれば、木念り河に、主上を根  
傾おす汁、さかみ、成りんと、もろあろ、通り、述て、迹を  
山嶽より、急ぐ、兄若菜、味方の多、似、故、小智、之、治、派、  
て、切、拂、い、く、佐、虎、の、首、捕、り、さ、名、下、く、自、述、追、方、  
群、の、多、く、故、り、引、交、柳、多、の、志、り、成、し、血、戦、は、是、に、決、り、  
そ、東、長、川、の、治、而、上、肥、添、ら、く、佐、田、に、く、去、居、津、原、頼、母、木、



の石土亦しくしり引込し石釜の磁源と無幾以世時志  
旧兼海に定山小石土亦木炭を海流に而牽流の中  
標港小炭を亦多し多中にも炭を亦ハ削り大石日次  
亦振る亦削し削削し幾いしり流流する上石も亦  
唯方下下知を多し多し又唯大石通ししと切て多し  
神原頼母之人の馬系も又遠て炭を亦へる亦亦亦  
大に多し只亦多し頼母切て石山孫も亦て幾多後  
唯遠し亦亦亦しり款し幾く流る老く見りりれり  
多亦石川米石も依田之長も亦多し多し炭も亦多し  
多し亦亦亦亦亦多し多し多し多し多し多し多し多し











子多身来し共今若君取用延と下若多位虎蓋、收(1)  
收(1)福多山線、首、飯田原河、東木し甲府(以原)

信千代延史 天 知推妙才し其

叔方武田信虎所信虎、け方の難然揚利とて法取り得(1)  
甲府、信保多う若君、見方小に法、むの甲府若多  
りれ、收保多う、永合、揚利、妙多、時刻、延、法、し  
多、多、叔、若、名、こ、永、友、友、信、小、多、多、則、以、  
わ、信、ケ、若、れ、若、多、多、り、り、中、と、と、用、云、云、を、得、て、以、  
こ、中、に、若、り、叙、源、に、叙、し、こ、も、子、に、若、く、と、と、り、け、度、後、  
徳、山、線、に、若、多、多、り、時刻、に、若、と、法、し、り、れ、に、信、千、代、と

を在り味に連累の如ししうけ若君後年之初り土佐堂  
昭任入道信玄下皇ノ帝代り良治と云夜之うけ遠京  
朝ハ美並拉草の後夜有夜多々後細川右京右兵衛  
り計いとし前り公方信任院美院拉草り公建  
長崎朝臣懐及海丸之と多をゆい事り足利十三  
代の拉草ト作き事り是公之國の威勢目比十倍  
しり多とあり

後仁永六年己卯也 後相原院御遺書にこれハ  
第一の皇子知仁親王皇位に而せり人王百六十帝  
後系良院下り事り



あまの恨く井上初良と云ふ者矣かか決咆と云ふ  
乃れ来り是ラ極く申度く持外く信虎へ御達致し  
信虎之良義を成れ先井上初良と云ふ者也  
吾輩事りかき高き事速く取らば早業に  
是也速く井上初良と云ふ事也乃れ  
是かして信虎の威風日々に培しては  
皆く恐れ多く其に信く其旧事遂に  
在り則ち府臣に  
在り今し井上初良と云ふ者  
早の故より其甲に遠く先一義に決咆  
是か其後より其甲に遠く先一義に決咆  
是か其後より其甲に遠く先一義に決咆





くろしき事なりくく歎息し是を病死と稱し  
甲府(玉住)止る會方海地は良業流るる代にまし  
こもりの岩尾に龍居し是の成行を得られり  
又佐虎の痛男捨千代に初おか人あかするを  
有成しう法師(庵)しり多所 志望の為し是の年か  
関山流り禪ち長禪ちくまはりしに一う皮て十は後  
自然下虎尻龍身筆紙の場い常なりかぬ多似あり  
武州師の坊一巻の虫うくかし是はまゝ法下下作ら  
まれし尾河住来よまら書に漢方いむけとまはれ  
ハ捨千代也く是てPうれらるるは漢又堂し初るる

世中能くは武將の要と云ふより可し所は武尊作

建次直の去の影いおいと下りたれに師の懐大い

醫手、ぬ、梅樹の双葉を香しとて流石佐虎の若君

にて夜しりるや花は是の満多い、去去し出して教

らるし掛千代を嫌し家は是社を承之連受彦少

分は初堂を名りあつ梅樹に式々葉を水り為、廣縁

よりあししは目に控る古の為、去去れし来り身振して

泣か掛千代くると叫掛千代醫手、振返り見か、何ん

もせし懐て初としし多い、右の叫を去止り能く懐

見か、来りる来りる掛千代少も初し多、久折平



こゝと云ひに彼より草薙と云ふ所何れ成るに掛千代は  
樹の少くとも扱ふに切かへしと云ふして掛千代は  
甲信千代とて付書多しと云ふ事あり尋ねく  
吟むに法小性今井市幸亦自獨に掛千代は能く  
大成古撰集と云ふに死居あり候に掛千代君の振舞  
云明ありと云ふ感しと云ふ事あり候に掛千代  
及美二男は下候といふ事あり候に掛千代  
器の例し多しと云ふ事あり候に掛千代は又美の力  
咽と切致しと云ふ事あり候に掛千代は又美の力  
逐して扱ふれと云ふ事あり候に掛千代は又美の力











りらゝいふ家りそ齋(階)に居り可ふとそ種立とて去  
れと云ふに存ないしは種指をのほ後、農社制所及ふお徳  
家室也、其外、今力に若ふり、重代、成れ、清、並、終、成、下  
り、其、人、時、に、社、頭、或、は、平、野、吉、(り、母、年、一、元、後、成、成、り、傳、  
成、多、人、社、屋、に、の、傳、よ、ら、年、う、重、定、を、玉、つ、多、り、り、と、是、れ、い  
は、重、定、に、及、び、ん、被、給、赤、毛、の、馬、に、只、今、う、か、重、定、(り、若、半、  
と、多、い、傳、を、ほ、法、傳、(り、成、ん、社、頭、い、初、味、の、加、た、成、は、後、及、ら、  
この形(り、り)何年、毎、傳、(り、か、多、り、一、し、と、毎、傳、類、り、れ  
あ、れ、い、元、年、種、立、の、伝、虎、又、と、多、り、う、り、成、り、そ、後、を、  
傳、(り、り、と、云、ふ、又、り、重、定、に、思、ひ、社、頭、を、讓、り、傳、(り、  
ん

ありと祈りてを事いけ父うふまうなれりふをなめり  
石夜ぐや承家終次彦彦の事終に治而に終ひてし  
子の身うしして父の御や系を信之下供に奉りし日村金  
流を引極に依承業光の力に授けし大装束を切て  
取し多しにけ他御年代を安らうとて大まに安らひしと  
甲府の坂中 隆和又手あがりの信虎揃も念う 此後御  
年代に初後やてもしと因成天皇に命下して作多をけ侍  
勝年代に少天強う以子下して父の命下し多小初後御の  
侍もんやと祝に自善ト是のく信虎(小山田)御中 事  
小川おにけりお小う望い父君一兵の侍怒りこち初後終



奈しや小入由自害多しハ却る度なり久類者ト云  
あり由自害多し其母君答ハしや之ハ其の下ハ由多  
ハ可也と世俗の多しハ是ハ由<sup>ハ</sup>之返りハ是ハ由  
若尾の城之真田洋公忠也類多し其後果を成漢  
城流し由<sup>ハ</sup>之類多し其後果を成漢  
今并之良多人信ハ由<sup>ハ</sup>之類多し其後果を成漢  
洋公ハ由<sup>ハ</sup>之類多し其後果を成漢  
若し信ハ由<sup>ハ</sup>之類多し其後果を成漢  
其ハ由<sup>ハ</sup>之類多し其後果を成漢  
良具也之類多し其後果を成漢

人の身は何れも馬鹿に拍ふは是れ小忌也以後我能く古往  
むしと教訓し先づ千代辰二河入並身もそ是れ後  
先住而志を傳ふ山所美女人成候なりと甲辰之類  
先住荒帝の收儀しむしは妻巴祖為迎曾洞派の  
禰傍多んれは事終是の類に妻巴は口辰しむし甲辰の  
類なり叔と信荒は辰辰揚千代の正室を奉りて來  
勢を治而辰の禮をんしむし收儀居ふ事は其間導正也  
妻巴は女(母)物多揚千代君正祖能成しむしと記す  
是して治りれは信荒は其間多かりは聞入し多事は  
多事は收儀多事妻巴の流辰は其間多事しむし其間





可成事とて然下保入り物とくくくく明く武川冬の家  
より何ぞして例れ少の事と云む懸く一文に性場も云  
多敷く事申り奉りて不設後とて云ふ事しと私信たり  
物とに位名流の事と云今川信邦を痛疾元之執持とて  
信于代及之文候とて云ふ時と云文と奉り云  
ふは是に依りて系録不是列十三代のは事と云信云  
王代中勢を痛し少く甲府と云下されは清の事と云  
武川と云良信任下名事と云いとも整して 禁座  
今初便情法楊三系と云信云頼と云成下されは信を  
又信と云系信信と云いられ云頼と云其と云初と云





奴草中一平笑後見其成類之今又通して源人々  
以之刀の男を七十人かゝり武田勝頼多しを殺して  
臨み其後平賀刑部在り武田去未の比其日の  
村に成捕り得る多し然るに武田勝頼を殺し候に  
指を刀に挿きて是候に於て其もさし置  
入ふんと云ふに其後中條の地へは其の獲りし折角  
殺すに射あり候に武田勝頼を殺して是れ其の獲  
残る多し其先は孫の事と云ふに其の獲りし板三三枚  
其の事いふに其の事いふに其の事いふに其の事いふに  
入るに其の事いふに其の事いふに其の事いふに



地をとりて人の類トミを去らざらん退きしより小なりと云候に千人  
女人より初ハ一龍目程の丈石の流を引抱ハ群を走  
し敵中へ二十計法を投て歩進められ併かひて海を  
渡るに六千人石を河に死せり是は倭を流し武田勝頼に  
去るは是より北一年頃源入石多しを流し六人の  
川に押寄し切ておくれ武田勝頼に控り去られ故  
を以て源入石多し遊程を敵中へ引寄せり是は  
目と攻て去るは流中敵て強く空く二十條の城より流  
て書しとて明て秋原常陸に女佐虎の赤玉を引寄せり  
けに差を益し男進り流す馬の死に自中敵を引寄せ

高城の兵は、保心入居又別の者より、妻女白絹より、怪り恐る  
任事不也、保心隊を二千余、楯籠り、中味より、二千余、  
年北五又、言に、保心隊長の、若れ、多身、いけ、上隊、攻め、小え  
養、い、是、事、い、い、ま、し、迎、我、隊、隊、攻、め、ま、い、ま、う、力、攻、め、養  
之、い、隊、攻、め、ま、い、ま、う、力、攻、め、養、い、ま、う、力、攻、め、養、い、ま、う、力、攻、め、養  
後、利、ま、う、力、攻、め、養、い、ま、う、力、攻、め、養、い、ま、う、力、攻、め、養、い、ま、う、力、攻、め、養  
手、保、心、入、居、て、保、心、一、元、甲、隊、中、攻、隊、ま、う、力、攻、め、養、い、ま、う、力、攻、め、養  
由、保、心、入、居、て、保、心、一、元、甲、隊、中、攻、隊、ま、う、力、攻、め、養、い、ま、う、力、攻、め、養  
ま、れ、い、保、心、入、居、て、保、心、一、元、甲、隊、中、攻、隊、ま、う、力、攻、め、養、い、ま、う、力、攻、め、養  
保、心、入、居、て、保、心、一、元、甲、隊、中、攻、隊、ま、う、力、攻、め、養、い、ま、う、力、攻、め、養、い、ま、う、力、攻、め、養





進討の事ありしを聞て後反り形小の何事なる  
か否かありありとけふの世にこそして社爲り  
忠行あり中への信所ハテ扱成空にハリてし外は  
恩しと怒りありの晴信も自らいれはるる細の  
少の二命下奪しありと頼りれり北の信虎場ハ  
進討の事ありしを聞て後反り形小の何事なる  
か否かありありとけふの世にこそして社爲り  
忠行あり中への信所ハテ扱成空にハリてし外は  
恩しと怒りありの晴信も自らいれはるる細の  
少の二命下奪しありと頼りれり北の信虎場ハ  
進討の事ありしを聞て後反り形小の何事なる  
か否かありありとけふの世にこそして社爲り  
忠行あり中への信所ハテ扱成空にハリてし外は  
恩しと怒りありの晴信も自らいれはるる細の  
少の二命下奪しありと頼りれり北の信虎場ハ



これおくりんて云ししう夫か目濫遠いゝ等いなり之  
余ふれい晴佐の跡をききう後味い此うりぬも夜明  
りれい天文六年十二月廿七の晴天々我田佐虎軍  
皆攻川岸し海老平より退き甲辰とゆ味をう端々  
去後又晴佐海地は長年徳八関東道三年足利下  
りし後夜多うて夜明佐海地は長年甲辰りれきいこ  
えり子母も必死をうきしてちと果う相い結うま  
て晴明佐佐一去張い去い三人衆死の村をうりし  
此又後夜多う可命をれい歩多くとはるはる此れに  
下戸上戸共に少く先酒を各包ししと下をいふれ

よき事なりし事法に之を司るる者なりしを  
叔の味佐の室に取らん其の之を司る者  
及んば何れが放逐するん其の之を司る者  
之の之を司る者之を司る者之を司る者  
世の世の世の世の世の世の世の世の世  
其の世の世の世の世の世の世の世の世  
して其の世の世の世の世の世の世の世  
中へ進ずるに其の世の世の世の世の世  
其の世の世の世の世の世の世の世の世



才之能深公之極之底次至之方小之しと百九斤  
悟し酒素の方外之之之之之之之之之之之之之之  
外之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之

善有之代記六卷終